



雪が降らない南国宮崎でも“スタッドレスタイヤ”は必要ですか？



夏タイヤは、降雪だけでなく“路面凍結”が起こると滑りやすく危険です！！

雪が降らなくても、日陰や橋の上など凍結が心配な場所もあります。

安心・安全の “スタッドレスタイヤ装着”をおすすめします！

外回りの営業で山越えされる方、スキーなどのウィンタースポーツや旅行の予定がある方、高速道路や山道でチェーン規制がかかっても安心・安全に走行できます。

Point!

“スタッドレスタイヤ”と“チェーン”の最大の違いは「手間」

タイヤチェーンは、価格が断然リーズナブルではありますが、脱着作業も慣れてないと難しいです。走行音、乗り心地も悪くなります。乾いた道での走行では、破損する危険が伴うため、こまめな脱着が必要となります。道路の状況で何度も停車して脱着は面倒です。

Point!

グリップと路面温度の関係性は冬も夏も極めて重要

タイヤのゴムは温度依存性があり、気温が高くなるとタイヤのゴムは柔らかく、低くなると硬くなります。夏用のタイヤが寒い冬にグリップしなくなるのはこの為です。また夏にスタッドレスタイヤで走るとタイヤの減りも早く摩擦抵抗が強いので燃費も悪くなってしまいます。

Point!

交換のタイミングは気温7℃が目安！

気温が3℃以下になると路面凍結が起きると言われています。そこで、最低気温の平均が5℃～7℃以上は夏タイヤを装着し、平均最低気温が5℃～7℃以下になったら冬タイヤに交換することを推奨しております。

こんなこと
ありませんか？

冬の運転、とくに滑りやすい
凍った路面は、不安がいっぱい

知って
いますか？

凍結路の制動距離は、乾燥路の5倍から8倍。
ちょっとした操作ミスが
大きな事故につながります。

ちゃんと曲がる・ちゃんと止まる『アイスガード7』をおすすめします

ヨコハマで初となるスタッドレスタイヤが、1985年に誕生した「ガーデックス」。

以来、36年という長い年月の間に育まれたさまざまなノウハウを結集させて「ヨコハマスタッドレスタイヤ 史上最高の氷上性能」をうたうの第7世代「アイスガード7」です。

満足度&リアルな声

つるつるの危ない場面でも、ハンドルが
取られずに走れた。

減速する際にキュッと止まる感じがよい。

凍った路面でもしっかり曲がっていく

VOICE

陽が当たらず陰になっている氷上を曲がる
際、横滑りすることがあるがアイスガード
セブンはより安心して曲がることできる。

凍結している道では滑ってしまうことが
多かったが、アイスガードセブンは危ない
と思うシーンはなかった。

※ヨコハマタイヤホームページより